

4 埼玉県

奥武蔵の山を満喫するコース

くろやまさんたき おおびらやま かあぶりどうげ く もとおね
黒山三滝—大平山—顔振峠—久ノ本尾根

530円

500円

森田俊男

【歩程】	4時間20分
【交通費】	1670円（池袋起点）
【地図】	原市場、正丸峠、越生 （2万5千） 東京（20万）

都心から電車で一時間ほどで行くことができる、黒山自然公園の中核を成す流れの美しい黒山三滝から大平山を経て、グリーンラインに通じる修験道の道、風光明媚（めいび）な顔振峠を経て静かな山歩きが楽しめる久ノ本尾根など、奥武蔵の山歩きが満喫できる条件を兼ね備えた魅力コースを紹介す

る。

東武東上線・八高線の越生駅から黒山行きの川越観光自動車のバスに乗り（月によりバスの発車時刻が変わるので要確認）終点の黒山で下車、バス停先の丁字路を右に三滝川に沿った道を行く。

黒山三滝観光客用の駐車場、黒山鉱泉館（休業中）の前を通り奥に進み、左川向こうに石仏が安置されている大善寺の跡を見る。

少し進んで天狗滝を示す道標に従い、小橋を渡り石段を上ると、落差13・6mの天狗滝前が出る。水量が少ないときは豪快さに乏しいが、見応えのある滝である。

滝の右を登ると、傘杉峠（古いガイドブックには「からかさすぎ峠」の記述もある）への道に出られるが、先ほどの小橋に戻り、左折して奥に進む。

高山不動への道を右に見て奥に進むと、豪快に流れ落ちる落差11・2mの男滝。緩やかに流れ落ちる落差4・5



男滝（右）と女滝（左）

の女滝の前に出て、見事な流れに息をのむ。

黒山三滝は埼玉県立黒山自然公園の中核をなし、春、秋の景観が素晴らしく、豪壮な滝を有する観光地であり、修験道場の名に恥じない、厳しい面影と神秘的な姿を見せている。

女滝からの流れを赤色の小橋で渡り、急坂を登って行くと天狗滝からの道と合流。右に折れて藤原入りに沿った傘杉峠への道を登ると、役行者像を示す見落としそうな道標があり、左に入って急坂を登る。

しばらく登ると大岩が出現、岩場に張られたロープを頼りに岩を乗り越え、登って行くと広々とした広場に出る。この広場は室町時代の応永元(133

98)年に、京都聖護院の山本坊栄円法印が、熊野権現を勧請した聖地とされ、山本坊栄円法印の墓とされる宝篋印塔がある。

平成9(1997)年には、京都聖護院門跡一行が参拝に訪れている。傍らには、熊野修験道の祖「役行者」の等身大の像が鎮座し、その前には金の目玉を入れたという前鬼・後鬼が控えている。

黒山三滝—大平山—顔振峠—久ノ本尾根付近略図



役の行者像背後のコブが大平山、以前は展望の良い小ピークだったが、歩く人がいなくなり藪に覆われてしまった。

藪の中の道をわずか行つて下ると良い道に出る。右に折れて山腹の道をたどり、足場パイプで安全柵が作られた道を登り、少し下るとグリーンラインに出る。

黒山三滝から大平山を経てグリーンラインに至る山道は、修験道の道にふさわしい雲囲気を醸し出し、味わいのある山道である。

左に折れて、舗装されたグリーンラインを700メートルほど歩くと、風光明媚なことで人気の高い、顔振峠(一時期「こおぶりとつげ」と呼ばれていた)に着く。

峠からは正丸峠、伊豆ヶ岳、子ノ山、蔵山、蕎麦粒山、川乗山、武甲山、富士山など広大な眺めが得られる。

顔振峠は冠峠が転化したものといわれているが、源義経と弁慶主従が奥州に落ちるとき風景の美しさに顔を振



役行者像と前鬼と後鬼

山）からは、日光、赤城、上越の山々が遠望できる。

顔振峠から諏訪神社に向かつてグリーンラインを行くと、左手に諏訪神社、鎌北湖方面の分岐を見る。その先で林道は大きく戻るように曲がつて下り、直進する吾野の長沢に下る風影林道と、左に大きく曲がる権現堂林道に分かれる。

権現堂林道に入り200メートルほど行つた、右手の小広場が久ノ本尾根の入り口、以前は送電鉄塔が建っていたが、今はその跡形すらない。

久ノ本尾根は騒々しさを逃れ、静かな歩きを楽しみたい人にとっては最高のコースだ。道標はないが道形も明瞭で枝道も少なく、尾根を外さなければ迷う心配はない。一気下りの急坂が数カ所あり、スリル感も楽しみみの一つだが、転倒、滑落しないよう足元には十分注意したい。

小広場に入ると、左に行く林道と、右に行くしっかりした山道があるが、その間の山に通じる踏み跡を登る。

登り着いた無名の小ピークを左に折れて尾根道を下り、登り返した小ピークから下って行くと、小広場で分かれた林道に出る。

林道を横切つて前方の尾根に取り付いて忠実に尾根上をたどり、急下降し登り返すと育代山（旭嶽）の小さな山頂に出るが眺めは乏しい。15分ほど下ると育代岩と名付けられた大岩があり、乗り越えても良いが大岩の手前を左に少し下り、岩を巻いて反対側に出る方が安全である。

ここから急下降と小さなコブの登り下りが幾度か続いて、下り切ると左にテレビアンテナを見る。この辺りがちようど吾野トンネルの上辺りで、吾野駅が近くなったことを思わせる。

さらに少し下ると、NHKと書かれた小さな黄色の杭があり、杭に導かれて下ると畑地を見る。

畑地の右端を歩き、最下部から左に行く足場パイプの柵のある小道に出る。右に下って歩行者専用の小さな踏切を渡り、坂を下ると国道299号に

り振り行つたので顔振峠となつたという伝説もある。

峠上には昭和30年創業の、かおふり茶屋と、江戸時代からある平九郎茶屋の二軒の茶屋が営業している。

かおふり茶屋の裏手から300メートルほど登った顔振峠見晴台（雨乞塚・冠



育代岩（後）からの下り

出る。右折して西武線のガードをくぐり、左折して吾野宿に入る。

近年多彩なイベントを催している吾野宿、宿場の雰囲気漂う古風な建物街並みを眺めながら吾野駅に向かう。

なお、西武線のガードをくぐったすぐ先、左側にある石段を上れば、先ほ

ど下った所の畑地に通じる道があるが、登るときは目印になるが、下ってきたときは数で見つけにくい。

(16年5月29日(日)歩く)

●コースタイム

- 越生駅（バス22分）黒山バス停―15分
- ―天狗滝―5分―男滝・女滝―10分―傘杉峠と役行者像分岐―35分―役行者像前―30分―グリーンライン―25分―顔振峠―20分―久ノ本尾根入口の小広場―5分―無名峰―25分―林道―10分―育代山―10分―育代岩―20分―テレビアンテナ―35分―国道299号―15分―吾野駅

●費用

- 池袋⇨越生 東武 720円
- 吾野⇨池袋 西武 600円
- 越生駅⇨黒山 川越観光自動車 350円

●問い合わせ先

川越観光自動車

0493-56-2001
 042-978-0056

かおふり茶屋（水曜定休日）

新ハイキング選書 第38巻

関東近県 花のハイキング12カ月

―いつでもどこかへ花あるき80コース―

A5判・274頁

本体価格1,800円＋税

関根 茂子 編著

1年12カ月、いつでもどこかで、咲いている花と出合える、「花ハイク」ガイド書

新ハイキング社 ☎・F 03-3915-8110

◎巻末の払込票を利用してお申し込みください。送料当社負担でお送りします。